

会 議 議 事 録

1 会議名	第5回長岡市立地適正化計画策定委員会
2 開催日時	令和4年10月4日（火曜日）午後1時30分～午後3時30分
3 開催場所	長岡市社会福祉センター トモシア3階 多目的ホール
4 出席者名	<p>■出席委員（6名） 佐野委員長、樋口委員、松川委員、松田委員、福本委員、小村委員</p> <p>■オブザーバー（3名） 国土交通省北陸地方整備局河川部 高橋河川計画課長、北陸地方整備局信濃川河川事務所 山邊副所長、新潟県土木部都市局 安藤都市政策課長</p> <p>■事務局（8名） 若月都市整備部長、高頭都市政策課長、辻都市防災まちづくり担当課長、近藤交通政策担当課長、金子危機対策担当課長、平澤都市政策課長補佐、小林都市防災まちづくり担当課長補佐、小島都市政策担当係長</p>
5 欠席者名	宮下委員、北陸地方整備局建政部 音瀬都市・住宅整備課長
6 議題	<p>1 第4回策定委員会からの修正事項</p> <p>2 防災指針</p>
7 審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・上記議題に関する質疑応答を行い、立地適正化計画の改定計画書（素案）について、主に防災指針の内容を中心に、各委員の意見を集約した。 ・次回以降の委員会の議事に反映する。

8 審議の内容	
都市政策課長補佐	まずは都市整備部長よりご挨拶を申し上げる。
都市整備部長	(都市整備部長あいさつ)
都市政策課長補佐	議事に入る前に、本日、宮下委員は所用のため欠席のご連絡を頂いていることをご報告させていただく。 次に資料の確認をさせていただく。 (資料の確認) 本日は議事録作成のため、録画および録音させていただくことをご了承いただきたい。 早速、議事に入らせていただく。 議事の進行は委員長にお願いしたい。
委員長	それではお手元の資料に従い、議事を進行させていただく。 まず、議事(1)第4回策定委員会からの修正事項について、事務局からの説明をお願いします。
都市政策課長	(議事(1)について資料説明)
委員長	ただいまの説明に関して、ご意見等はあるか。 第9章で示す施策における主な対象者として、行政と記載しているが、これは長岡市のことか。他にもあるのか。
都市政策担当係長	主に長岡市にはなるが、国の補助金等を活用する場合もあるので、行政という書き方をしている。
委員長	長岡市以外が補助対象となるものはあるのか。
都市政策担当係長	ないため、記載を修正する。
委員長	他にご指摘はよろしいか。

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>続いて、(2) 防災指針について事務局からご説明をお願いします。</p> <p>(議事(2)について資料説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>今の説明に対して、ご質問等ありましたらお願いしたい。</p> <p>我々なら分かると思うが、初めて見る方に対する説明が足りない。例えば、P7-8を見ていただくと、マクロ的、ミクロ的な視点から分析を行うと記載している。分析内容の細かい内容は(委員会資料である)パワーポイントを見て理解してもらおう形になっていると思う。</p> <p>図は、本質的には補足的に使うべきものであるもので、全体を通して初めて見る方でも分かるよう、素案の中で説明が必要である。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>そういった点を意識し、図だけで説明している箇所について、補足的な説明も含めて考えていく。</p>
<p>委員長</p>	<p>P8-5の評価指標について、外水の場合は、(安全性が高いエリアに居住する人口の割合が)約半分で改良の余地が沢山あるが、他の災害種別は96.7%や99.7%等であり、何をやってもあまり改良しないように見える。何もしなくてもいいというわけではないが、施策による改良の具合が見えてこない。</p> <p>例えば、地震では建物全壊率が50%未満だと99.6%であるが、建物全壊率をもう少し低く設定すれば、(安全性が高いエリアに居住する人口の)割合が下がると思う。ある程度、施策を行うことで改良していくイメージができる値の範疇にした方がよいと思った。外水以外は何をしても割合が増えない印象を受け、正確な評価ができないのではないか。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>土砂災害を例に挙げると、元々まちなか居住区域において危険な土砂災害のエリアは外している。現行計画策定時から安全性を高めようとしてきた結果として、高い割合になっている。</p> <p>施策の効果が見えるように厳しめに設定するものかどうかと思うところもある。現状の案の見せ方により、今の指針はどの災害に対して取組を進めていくべきかというのが明確になっている。効果を検証するための目標値の設定について、ご意見を踏まえて考えていく。</p>

A委員	<p>今の話を重ねて、「安全性が高いエリア」という表記は、初めて読む方の視点からすると、場合によっては安全性が確保されているエリアと誤解されてしまうのではないか。「安全性が高いエリア」という言葉を変えるか、「安全性が高いエリア」の定義について注釈を追記する必要があると思う。定義しているのはこのページなので、表現は大事だと思う。</p> <p>また、(外水の評価指標の) 浸水深0.7mという点が気になる。その後の P8-6や(パワーポイント資料) P14の記載では、0.7mが安全に見えてしまう恐れが出てくる。数字や決め方には異論はないが、数字の扱いを誤読させない配慮をお願いしたい。</p> <p>まだ分かりにくい点もあるが、以前と比べ、全体的に内容がスッキリした。防災指針としての役割ではこれでよいが、他の計画やハザードマップ等との関連性が分かる記載が抜けていると思う。説明時に他計画がよく出てくるので、立地適正化計画の防災指針を読み取る上で、前段の情報として与える必要がある。</p> <p>また、防災指針を定め、取組を充実させていった場合でも、被害が出る災害が起きた場合に、復旧復興の話が出てくると思う。その場合、復旧復興とのメニューの連動、端的なものでは防災集団移転促進事業等のエリア要件や災害危険区域の指定等との関連性について、どのように考えているかお聞きしたい。</p>
都市防災まちづくり担当課長	<p>一点目の指標については、誤解を与えない定義を決めたい。説明が多くなっても伝わりにくいと思うので、シンプルに定義を整理していきたい。</p> <p>P8-6の0.7mのところは、比較的安全性が高いが、移動はできない状態であるので、安全だと誤解されないように注意書きを記載する必要があると思う。移動はできないが、その場に留まって安全性が確保できるという整理である。</p> <p>ハザードの定義については、P2-22に長岡市の置かれているハザードを記載している。また、P4-4から P4-8までは、まちなか居住区域の設定基準としてハザードに関する状況の記載をしているので、こういった箇所と重ならない内容で、防災指針の章においても、ハザードと防災指針の違いを整理していく必要がある。</p> <p>復興に関しては、現在、地域防災計画の改定作業が進められており、復興についても記載している。地域防災計画との連携は、立地適正化計画にも記載しているので、そういった点を書くと思う。現</p>

<p>A委員</p> <p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>状として、立地適正化計画の範囲を超える部分であり、被災時のことを事前に計画としてどこまで書くべきかは、内部で整理させていただきたい。</p> <p>その視点で他の計画との関連性がわかるようになれば問題ない。</p> <p>P1-5で各種計画との関連性として整理しているが、防災指針の中でも明確化したい。</p>
<p>B委員</p>	<p>一点目として、P7-4の多層的な取組の図について、出典から直接引用しているが、これを基に別途作図して載せる方がよいのではないか。よく見ると奥行きがあり多層的を示していると分かるが、直感的に理解することが難しいので、奥行きを付けない方がよい図になると思う。1枚の図で全て説明しようとするとう無理がある。ご検討いただきたい。</p> <p>P7-11の一覧は、工夫をしていただきありがとうございました。P7-11において、特に配慮すべき課題に関する赤枠の注釈が右上にあるが、人間の視点は、地域別リスクの傾向（総括）から右下の方へ流れていくので、総括の横に寄せて書いた方がよいのではないか。微細な指摘だが、寄せて書いた方が赤枠の意味がわかりやすいと思う。</p> <p>また、P7-11で地域別リスクの傾向として全体を示し、次ページからはエリア別リスクの傾向として各地域についての詳細を述べる構成だと思う。まちなか居住区域を「エリア」と呼んでいることは察しがつくが、地域とエリアの違いが構成としてわかりづらい。大きな意味がなければ地域で統一しても差し障りはないと思う。また、P7-11において、次のページからは各地域別に説明する旨が書いてあれば、資料として読みやすいと思った。</p> <p>P8-6の評価指標の考え方について、左側の浸水深は基準面が床面であり、右側の基準面は地面である違いが分かりづらい。右側の赤線部分にも左側と同様に縦方向の矢印を付ける、左側の床面からの浸水深0.5mの基礎面のところは下向きの矢印を付けるなど、(引用元が)国土交通省の図なのでできないかもしれないが、工夫いただきたい。また、図中の人間のサイズが日本人の平均身長からすると大きいと思う。</p> <p>P9-20以降で計画を実現するための施策として一覧をまとめてい</p>

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>るが、ソフト対策の観点での人材育成や啓発の中身等の防災施策が含まれていない。一覧は、立地適正化計画の目的達成に資する施策を集めたものではあるが、防災・減災に資する全ての施策ではないと理解して良いのか。この一覧の目的や効果にもよるが、他にもあるということをごどこかに注記するなどの方針があれば教えていただきたい。</p> <p>P7-4は、この図を使おうと考えている。ご指摘の通りわかりづらいとは度々言われているが、分解して示すことが難しい。可能かは分からないが、工夫の仕方を考える。</p> <p>続いて、P7-11では、市域全域について各地域別に示している。各地域のなかで立地適正化計画の対象を絞り込んでいるため、「エリア」という呼び方をしているが説明を考える。併せて、注釈の「特に配慮すべき課題を示している」という記載の配置を含め、説明の仕方を考える。まちなか居住区域内の「エリア」の説明に入る誘導として、繋がりがわかりやすいように考えていく。</p> <p>P8-6に関しては、まず一点訂正をさせていただきたい。図中の左の方の「1.2m以上」は「1.2m未満」である。この図については、国土交通省のマニュアルを分解して作成しているので、誤解を与えないような加工はできると思う。伝わりやすい内容になるよう整理していく。</p> <p>P9-20の防災・減災対策は、当然細かいものを含めれば幅広に出てくる。元々、私共は自然災害に対して絞り込み、立地適正化計画に記載しているので、例えば道路に関する施策等、他にも色々なものが出てくるとは思う。ここではあくまで私共が考えているハザード、リスクへの対策として有意義なものを代表としてまとめたものなので、計画期間の5年間の内に新たに追加されるものもあると思う。その点については注釈を記載する。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長補佐</p>	<p>一点だけ補足させていただきたい。P7-11でご指摘いただいたエリア別のお話だが、初めは地域別という形で整理したいと考えていた。しかし、地域という形で整理をした時に、まちなか居住区域外を含むと誤解されることを避けるため、あえて「エリア」としてまちなか居住区域を際立たせるために分けたという検討経緯がある。</p>

都市防災まちづくり担当課長	P7-22以降の取組方針でも P7-11同様に、突然言葉が変わるため、繋がりについて検討する。
委員長	黒抜きと白抜きで地域名が示されている。白抜きが危ない箇所だと思ったが、白抜きで示している中之島地区は（特に配慮すべき課題を示す）赤枠がない。
都市防災まちづくり担当課長	黒抜きと白抜きの帯の違いについては、まちなか居住区域を有する地域であるかの違いである。和島、寺泊、小国、山古志地域はまちなか居住区域がないため、分けている。まちなか居住区域を有しない地域はエリア別で示していない。
C委員	<p>P8-5で、安全性の高いエリアに居住する人口の割合の目標値を定めることは、非常にチャレンジングなことで、大事であると思う。</p> <p>安全性の高いエリアに住む人の割合について、特に外水は思ったほど伸びていないという状況でありながら、対策としては一生懸命に行うと書かれている。あまり効果が無いものに対して、何故一生懸命に取り組むのかと、一般市民の感覚からすると感じてしまう。これは居住誘導区域内の割合という理解でよいか。</p>
都市防災まちづくり担当課長	そうである。
C委員	居住誘導区域内の人口割合だけで見ている点について、あまり複雑化せず、単純化したいということかもしれないが、外水で人口割合があまり伸びていない場合、「居住誘導区域内でも比較的浸水深の深い場所の割合が減少している」、あるいは「居住誘導区域外の危険な場所の割合が減少している」と示すなど、人口割合だけを示してもあまり効果がないのではないか。
都市防災まちづくり担当課長補佐	指標は数字だけ見ると分かりづらく、外水以外の3指標の数字は全く変わらないため、他の示し方もあると思う。目標値の欄外に、参考値の表記で安全性が高いエリアに居住している人口の情報をお示ししている。外水では、1%変わるだけで居住している人口では1,400人ほど増えるという形になるので、割合の他に参考値として人口を明示するというのも一つの方法である。人口割合が3%増えると、安全なエリアに住む人口が約4,000人増える形になるので、

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>そういった見せ方もよいのではないかと考えている。</p> <p>注釈のアスタリスクの二つ目に書いているが、今回の外水については、国の施策として国管理河川の将来計画の整備効果が示されていることから、その結果を踏まえて評価している。現時点で、将来形として見えるのは信濃川だけである。県管理河川では効果の見えていないところがあるが、次回の改定までに全国的な施策の方向性として将来の整備効果を示すという方向が打ち出されているので、そうした整備効果を踏まえて、今から示すことは意味があるのかと考えている。実態として把握しきれていないところを指標として示そうとしている。</p>
<p>C委員</p>	<p>先ほど、A先生からもご指摘があったが、評価指標の0.7mや平屋建築物で危険性が高まる浸水深1.7m等について、0.7mより上は危険、0.7mより下は安全としているが、それぞれの浸水深ごとでどの程度の変化があるのか知りたい。</p> <p>逆に、危険な場所については浸水深が深い場所にお住まいの方の数が減っているのであれば、整備した効果が示せると思うので、ご検討いただきたい。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>防災指針としてどこまでを計画書の中に示すかというところもあるが、せっかくなので1.7mがどのエリアか分かるように、資料編P32で示すことができないか参考にご説明したところである。本編第8章での示し方については、事務局としては今の案で行きたいが、補足の説明を検討し、次のパブリックコメントに向けて考えたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>P8-5で人口割合が出てきているが、これは人口の社会増減や自然増減を考えず、現在の居住者が継続して居た場合の計算であるか。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長補佐</p>	<p>こちらはH27国勢調査を基に、国立社会保障・人口問題研究所が推計したものをを用いている。社会増減等を含む人口割合である。</p>
<p>D委員</p>	<p>住宅部門について感想と議論をさせていただければと思う。平屋建ての説明について、市民の皆様に対してわかりやすくしていただいたと思う。</p>

都市政策課長

P4-3の居住誘導の方針の文章に、「より浸水リスクの低いエリアへの居住誘導」という言葉があるが、これが意味していることは、例えばまちなか居住区域から外に誘導するイメージなのか。それとも、区域内の災害リスクが高いエリアからより低いエリアへの誘導と見るのか。見方を教えていただきたい。

関連して、P8-8の居住誘導に係る中間評価について、令和7年時点ではいずれの指標も達成できない見込みと書かれているが、この中間評価がどういう役割を持つのか見えない。中間評価として目標が達成できない見込みと書いた上で、居住誘導の施策が後半に記載されているが、この施策は今までと全く内容は変わっていない。中間評価で目標が達成できない見込みであることや災害リスクの低いエリアへ誘導することなどの一連の流れが、どういう方向に行くのか気になった。

外水における浸水深が深い信濃川縁辺部等は、耐震化等の色々な要素を含めると、若干、共同住宅もシステムとして適切でない部分もあるが、設備対策をした共同住宅を推進していくことが、市民の皆さんの安全を考える上での施策として必要だと思う。ご意見、お考えをお聞かせ願いたい。

P4-3の「より浸水リスクの低いまちづくりに向けて」の記載については、非常に長期的な視点で捉える中で、色々選択肢があってもいいのではないかとこの考えから掲載したものである。長岡市の立地適正化計画では、郊外居住区域を設定している。長期的な視点では、浸水リスクの低い場所が居住誘導区域になり得る可能性もある。それぞれの居住の選択肢にそういう場所があってもよいという意味で記載しているが、具体的に限定するものではない。

もう一点、中間評価を踏まえ、施策が変わらないというご指摘については、大きな意味での施策展開は動いていないが、例えば、まちなか居住区域に住んだ時の税控除の制度を改正している。今までは市外からまちなか居住区域に来ただけを対象としたものを、長岡地域や越路地域等にエリアを限定するが、居住誘導区域外から居住誘導区域内に移った方も対象とする。細かな制度調整をしながら、これまで取り組んできた施策を進めて行きたい。大きなくくりとして変わっていないところもあるが、努力していきたい。

共同住宅等については、新潟県でもマンション適正化の動きも出てきている中で、長岡市でも流れに合わせ、対応を少し考えていか

<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>ないといけない認識もあるが、具体的にはない。</p> <p>続いて、今後の進め方について説明させていただく。</p> <p>(今後の進め方について資料説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>何かご質問はあるか。</p> <p>それでは総括に入る。気になる点として、個々のパーツは良いが、初めて見る人が最初から読んだときに分かりやすく頭に入るようにしていただきたい。多くのパブリックコメントが付くように作り込んでほしい。分かりにくいとパブリックコメントは付かないと思う。</p>
<p>都市防災まちづくり担当課長</p>	<p>最後に一点。防災指針の指標値に対して多くのご意見をいただいているので、今回いただいた意見を踏まえ、事務局で修正した案でパブリックコメントに出させていただきたいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日予定していた議事はこれで以上である。</p> <p>進行を事務局にお返しする。</p>
<p>都市政策課長補佐</p>	<p>委員長ありがとうございました。委員、オブザーバーの皆様、本日は長時間にわたりご議論ありがとうございました。</p> <p>本委員会の議事録については、作成後、委員長から確認の署名を頂き、委員の皆様へ郵送させていただく。</p> <p>次回の委員会は、12月に開催する予定である。改めて開催通知にてご予定をご確認させていただく。</p> <p>以上をもって、第5回長岡市立地適正化計画策定委員会を閉会する。</p>
<p>(委員長の署名欄)</p> <p style="text-align: center;">佐野 可伸志</p>	
<p>9 会議資料 別添のとおり</p>	